



全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北6西7北海道自治労会館
電話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 佐々木直人

原子力規制委員会は、日本原子力研究開発機構が高速増殖炉もんじゅを運転管理する適性に欠けると判断した。もんじゅは1995年に運転を開始したものの、1万点にのぼる機器の点検漏れなどのずさんな管理、事故が絶えず、

稼働はわずか250日間。これまでに1兆円の国費が投じられてきたが、核燃料サイクル計画は事実上破綻している。それでも政府は推進方針を堅持している。現実を直視し核燃料サイクルから撤退すべきである。

2015賃金確定闘争

給与は「自主的・主体的」に決める 多くの単組で「継続交渉」

道本部は11月18日のヤマ場を頂点として「人勧完全実施・年内改定・差額支給」を柱に賃金確定闘争を展開してきたが、閣議決定・臨時国会の開催が不透明ななか、国が圧力をかけ、大多数の自治体で給与が決まっていない状況にある。今後、給与決定の早期決着にむけ、たたかいを再構築しなければならない。

総務省の圧力で交渉難航

総務省は人事院勧告の取り扱いについて、国に先行して給与改定を行わないよう自治体に圧力をかけている。自治体での

給与決定は、地公法上「自主的な判断」による給与決定が原則

「自主的な判断」であり、国公給与は給与決定の参考にならない。しかし、国からの不当な圧力・介入が労使交渉を難航させて、賃金確定に歯止めをかけている。

過去にない異例の事態

11月19日現在、55単組で「国の閣議決定後や給与改正後に給与改定・差額支給を行う」ことを確認し一旦交渉を終了している。多くの単組で給与改正に関する閣議決定や国会招集時期が不明であることを理由に、当局は回答を示すことができず、交渉に至っていない状況にあり、過去に例のない極めて異例な事態となっている。

給与改定の早期決着

道本部は、給与改定の早期決着をはかるため対応を検討する。単組にお

『臨・非』賃上げ回答

地公法の給与決定の原則に基づき、自主的な判断を当局に強く求めた結果、7単組で「年内改定・差額支給」となった。また、臨時・非常勤等職員の処遇改善については、6単組で日額・月額の上昇のほか、手当や休暇などで進回答を引き出している。



地公三者副知事交渉=11月17日、札幌市・北海道庁



地公三者昼休み総決起集会=11月17日、札幌市・北海道庁前庭

17年の独自削減に終止符

地公三者共闘は、11月17日、副知事との最終交渉を実施した。交渉は「一般職に係わる給与の削減措置を今年度で終了するという答弁を議会先行で行ったことに対し、労使関係を

軽視している」と強く抗議した。今度の対応は、一般職員に限られておらず、これまで確認してきた、人件費の削減情勢を総合的に判断し、時間外報告集金に戦術を変更した。

えさきたかし奮闘記 人の明日を咲かせよう①

『初心』忘れず再選つかむ



いよいよ国会へ=2010年7月30日

北海道のみならず、お元気ですか。今回から新しい企画の『えさきたかし奮闘記』の掲載がはじまります。ご愛読よろしくお願いします。初回ですから、議員になったころの思いから始めます。選挙が終わってからは初めてのこの連続、新入生の気分でした。総務省の講堂で当選証書もらい、いよいよ国会へ初登院。あいにくの雨でしたがびっくりするほどの報道陣が国会正門前に陣取っていて、注目新人を探していました。幸い僕は彼らの眼中になかったので難なくその関門を突破することができました。議員が僕だったわけですから、秘書さんがつくというのも、もちろん初めて。なんか面食らって恥ずかしい気持ちばかりでした。以来、5年余り何とか頑張ってきたのもみなさんのご支援の賜物と感謝しています。初心を忘れずこれからも張りまくります。もう6年目。再選にむけて頑張ります！



職場に入り力強く決意を述べる



消防の仲間とガッチリ握手

組織内えさきたかし参議道内入り 仲間を増やし政治を変える

10月26、29日、えさきたかし参議が来道し、網走・十勝・日高・胆振・渡島地本管内、37単組・総支部と全水道、全農林の職場訪問や国政報告会を帯広・八雲・北斗の3会場で行った。国政報告会では「安倍首相は、立法院である国会をも自分のものとし、悪法である戦争法案、派遣法案を強行採決した。また、武器の開発、輸出、輸入を行う防衛装備省を設立し、すでに潜水艦の受注を行うなど世界第三位の武器輸出大国になろうとしている。自衛隊の増強をはかるため『経済的徴兵制』を引くことをもくろみ派遣法の改正により貧困層の拡大をはかるうとしていいる」などと政治課題に触れたうえで「我々のたたかいは武器をもつことではない。仲間を増やし国民とともに立ち上がることだ。来夏の参院選で必ず勝利し、この政治の流れを変える」と決意を述べた。

道本部2016国民春闘討論集会

とき：2016年1月8日(金) 13:00 ~ 9日(土) 12:00
ところ：札幌市・自治労会館

2016道本部青年部春闘討論集会

とき：2015年12月19日(土) 13:00 ~ 20日(日) 12:00まで
ところ：札幌市・自治労会館

JICHIRO スケジュール

11月	
23日(月)	11. 23幌延デー全道青年女性総行動(天塩町) 11. 23幌延デー全道集会(幌延町)
12月	
5日(土)	道本部現業公企都市交セミナー(～6日札幌市)
6日(日)	自治労青年女性オキナワ平和の旅(～9日、沖縄県)
10日(木)	自治労本部2016春闘中央討論集会(～11日、東京都)

道本部ホームページ

自治労北海道 ユーザー名: minnade
組合員専用ページは パスワード: danketsu2013

戦争をさせない総がかり行動 「戦争法」発動にストップ

戦争をさせない北海道一争させない総がかり行動委員会が11月11日、札幌市・大通西3丁目「戦争00人」が参加した。



集会には、約800人が参加した=11月11日、札幌市・大通公園

道平和運動フォーラム・山木代表は「戦争に巻き込まれるかもしれないといった不安だらけの生活は御免だ。今も全国各地で抗議行動が行われている。こうした行動が戦争法発動にストップをかけ、廃止に追い込むことになる」と確信している。力を結集し、頑張ろう」と訴えた。

憲法共同センター・黒澤幸一代表は「安倍政治を倒すため、我々市民と労組の仲間たちが共闘することにより、職場や地域から戦争法を廃止に追い込むことができる。寒くなる時期だが引き続き頑張ろう」と呼びかけた。小樽商大名誉教授の結

城洋一郎さんは「11月3日、総がかり実行委員会が中心となり、戦争法の廃止を求める2000万人統一署名運動を開始した。若者たちの運動も続けられており、全国各地で政党、政治信条の枠を超えた共闘体制が構築されている」と述べた。その後、市内をデモ行進し、戦争法の発動を止めよう」と訴えた。



集会後は、デモ行進で「戦争法発動阻止」を訴えた

青年部役員セミナー

職場の声が運動の原点



グループ討論では、さまざまな課題が出された=11月7日、札幌市

11月7、8日、札幌市・北海道教育会館で「2016道本部青年部役員セミナー」を開き、13地本45単組・総支部92人(うち女性15人)が参加した。

セミナーは「地本と単組の往復運動」何にこだわって運動したいのか」をテーマに開催した。2日間に行われたグループ討論では、職場や生活での課題、その原因や背景を出し合った。参加者からは「職場の

あいくみの国会だより 相原久美子の国会だより 39

安倍政権が、立憲主義を無視して閣議決定による集団的自衛権行使の法案を出してきたことから結成された「超党派立憲フォーラム」の研修合宿が開かれました。「えさきたかし」必勝は最大課題

各団体や学者、学生、法律家など幅広い国民運動が展開されるなか、数の力で法律は強行採決されましたが、「戦争法」に反対する運動は弱まってはいません。そこで、来年の参院選までに立憲主義・平和・人権を守ろうとするこれらの皆さんの声をどう受け止めて与野党逆転による閉止めをかけるかが、これからの新たなたたかいであることを全体で確認しました。今、さまざまな形で野党共闘の動きが出てきています

子どもたちと協働のまちづくり

【釧根地方本部発】

羅臼町職労では、青年部を中心として羅臼漁業協同組合と羅臼町商工会の3者連携により、町主催の一大イベント「知床開き(6月開催)」のプログラムの一つとして小学生を対象としたドッジボール大会を、役場で働く若者として」自治体職員



職場だより

で構成する労働組合事業の一環として位置づけし実施しています。毎年、10チーム以上が参加しており、1チーム12人からの募集です。総勢100人以上を募る盛況の催し物として、子どもたちに広く定着してきています。

00人、実に3分の1以上の子もたちが一つの会場に集まる大きな大会となっています。参加者からは「すごく楽しかった」「また来年も参加したい」と感想があらわれます。

職員減少により、運営が年々厳しくなっていますが、協働のまちづくりをめざし引き続き取り組んでいきたいと思いを述べ、(羅臼町職労・青年部員 黒田一気)



ドッジボール大会は、町内の小学生3,000人が集う盛況行事となっている

参加者の声

「青年部役員セミナーに参加した仲間から、参加したきっかけや感想を聞きました。頼られる役員になる」



苫小牧市職労・川崎友和さん

今回、青年部員からいろいろな質問がされても答えられるようになるため、基礎的な知識を学びたいと思いで参加した。分散会を通じて、今後

◆課題の解決策が見えた

◆課題の解決策が見えた